出身

大沢雄一氏は、明治35年(1902)12月13日、吉川市(当時の三輪野江村)に生まれ育ちました。

中・高校

学生時代は、第二の野口英世になるべく医者を目指し勉強に励んでいましたが、旧制高校入学後、結核にかかり、5年間の療養生活を送りました。病気が良くなった後は弁護士になる夢を持ち、中央大学に入りました。

内務省へ

大学卒業後、国の内務省(警察・地方行政・土木など内政全体の仕事を行う)に勤務し、佐賀県などを経て、中国開封総領事として勤務していたときに終戦を迎え、1万4千人の居留民とともに、日本に引き揚げてきました。その後、郷里の埼玉県に戻り、教育部長や総務部長を勤め、昭和24年(1949)、46歳の時にその誠実な人柄と活躍ぶりから、多くの県民から支持を受け、公選2代目の埼玉県知事に当選しました。

昭行24年5月19日 (木曜日) 第1666号 (昭75)

THE SAITAMA 埼玉新聞

大澤氏堂々當選

新知事 廿一日初登廳

吉田副知事 辭職を決

昭和24年5月19日 埼玉県知事当選の記事
(「埼玉新聞」より転載)

県知事の主な功績

- 埼玉県の財政立て直し
- 焼失した県庁舎の建て直し
- 県内の町村合併を進めた
- いろいろな工場を県に誘致
- 文化や教育の発展に努めた
- 保健所の建設
- 武蔵野線早期実現に尽力

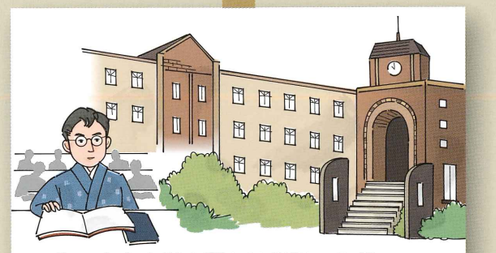
昭和30年
再建された埼玉県庁
(埼玉県行政文書11542
埼玉県文書館収蔵)

大沢雄一氏の歩み

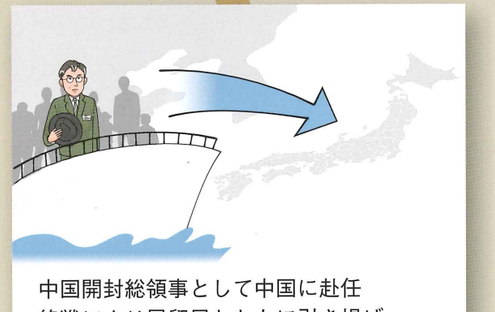
～県知事への道～

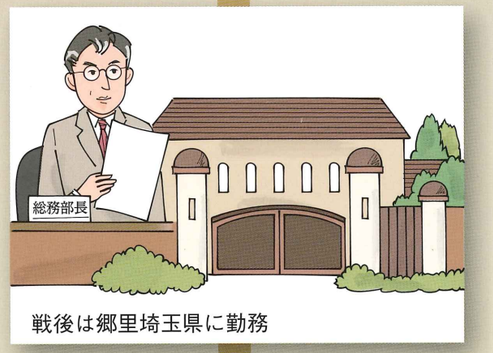
出生
父は、医者となり村で開業するよう期待

結核を患い5年間の療養生活


回復し中央大学専門部法学科に入学
父の願いに応えて東京女子医大に入学した
妹と弟と三人で下宿し、勉学に励む

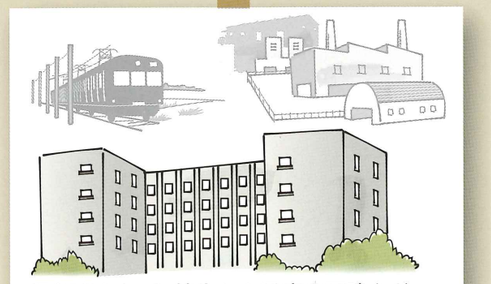
大学卒業後内務省へ　佐賀県に配属


中国開封総領事として中国に赴任
終戦により居留民とともに引き揚げ



戦後は郷里埼玉県に勤務

昭和24年、公選2代目の埼玉県知事になる


県知事として、焼失した県庁の再建など
多くの功績を残した

※マンガはイメージです。

国会議員として

昭和31年(1956)5月まで県知事を務め、その後参議院議員となり、昭和35年(1960)には衆議院議員となりました。

その間、昭和34年(1959)に成立した第2次岸内閣では、建設政務次官に任命され行政手腕を発揮し活躍しました。その後、首都圏整備委員会委員として武蔵野線の建設のほか、常磐自動車道の建設、東京外かく環状道路の建設などに尽力しました。

晩年

長年、埼玉県や国の政治・行政に貢献した功績が認められ、昭和49年(1974)に浦和市(さいたま市)名誉市民となり、昭和55年(1980)には勲二等旭日重光章を受章しました。

このように、大沢雄一氏は戦後の日本が復興から繁栄へと飛躍する転換期において県政・国政を支え、民主政治の発展に功績を残し、昭和59年(1984)7月23日、81年の生涯を終えました。

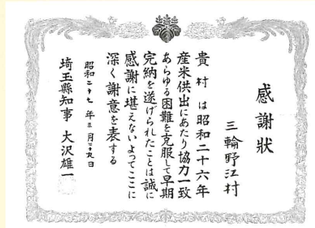
県知事大沢雄一氏と吉川

吉川市には、県知事大沢雄一氏との関係を窺わせる史料が数多く残されています。ここでは2点紹介しましょう。

昭和27年 供出米早期完納の感謝状(教育委員会蔵)

供出制度とは、戦中・戦後の食糧不足の時代に、農家から主食を政府が決めた価格で強制的に政府が買い上げた制度です。主食を国が管理し、消費者に公平に配給していました。

この史料は、お米を期限より早く国に納めたことへの感謝状です。


感謝状

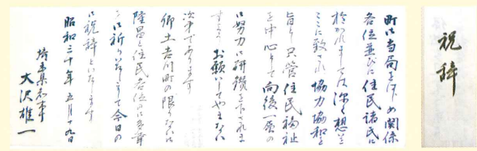
三輪野江村

貴村は昭和二十六年産米供出にあたり協力一致ありゆる困難を克服して早期完納を遂げられたことは誠に感謝に堪えないようてここに深く謝意を表する

昭和二十七年三月三十日

埼玉県知事 大沢雄一

昭和30年 吉川町合併祝賀会での祝辞(教育委員会蔵)


祝辞

昭和30年5月19日に吉川町・旭村・三輪野江村の合併祝賀会が吉川小学校講堂で開かれました。これは来賓として招かれた大沢県知事の祝辞です。